2007 国民平和大行進

1歩2歩と踏みしめて50年

1958年から始まった国民平和大行進。今年はちょうど50回目。５月６日に東京を出発し、６月30日に奈良から大阪入りした2007国民平和大行進は、柏原市、八尾市、東大阪市を行進し、７月１日には南河内、７月２日には泉州路を「核兵器を廃絶しよう」「原水爆禁止世界大会を成功させよう」と訴えながら行進しました。雨が降り続いた７月４日には大阪市内に入り、住吉区役所から大阪府庁、大阪市役所を通過し、旭区役所まで行進しました。

大阪市内を行く国民平和大行進

住吉区役所前での出発集会

住吉区役所前での出発集会や大阪城公園教育塔前、中之島公園でのミニ集会では「久間前防衛大臣の原爆投下『しょうがない』発言は許せない。任命した安倍首相の責任は重大だ」の怒りの声が起こっていました。

2007国民平和大行進は、北河内、北摂地域を通過して、７月７日に、兵庫県川西市に引き継がれました。

おおさか自治体の仲間
発行：大阪自治労連（大阪自治体労働組合総連合）
2007年７月15日〈部内資料〉
No.222

〒530－0041　大阪市北区天神橋１－13－15大阪グリーン会館４Ｆ　☎06－6354－7201　FAX06－6354－7206
E-mail:mado@osaka-jichiroren.jp
URL:http://www.osaka-jichiroren.jp

発行人／谷　真琴　　編集人／西岡　健二
平成２年９月12日第３種郵便物認可
毎月15日発行（１部10円）組合員の購読料は組合費に含まれています。

日時だよ！ 全員集合

2007年７月～９月の主な行事・とりくみ

- ７月25日(水)　2007夏季闘争公務労組連絡会第２次中央行動
- ７月29日(日)　参議院選挙投票日
- ８月４日(土)～５日(日)　自治労連現業労働学校（愛知県犬山市）
- ８月４日(土)～６日(月)　2007年原水爆禁止世界大会・広島大会
- ８月７日(火)～９日(木)　2007年原水爆禁止世界大会・長崎大会
- ８月８日(水)　自治体労働者平和のつどい（長崎市）
- ８月11日(土)　大阪自治労連バレーボール大会（堺市大浜体育館）
- ８月11日(土)～13日(月)　夏の勤労協大学（八ヶ岳美しの森）
- ８月18日(土)～19日(日)　自治労連第29回定期大会・事前大会（神戸市）
- ８月20日(月)～22日(水)　自治労連第29回定期大会（神戸市）
- ８月23日(木)　チアリングフェスタ（扇町公園）
- ８月25日(土)～26日(日)　第53回日本母親大会（東京）
- ９月１日(土)　第35回大阪労連定期大会（エルおおさか）
- ９月１日(土)～２日(日)　第49回自治体学校（横浜市）
- ９月６日(木)～７日(金)　第20回大阪自治労連定期大会（シティプラザ大阪）
- ９月12日(水)～13日(木)　近畿ブロック軟式野球大会（万博記念公園野球場）

「高槻市役所九条の会」結成

現役も退職者もいっしょにこの旗に

憲法を守る思いを市役所の内外へ

伊延　利弘さん

西　晃さん

6月29日、「高槻市役所九条の会」が結成されました。退庁後の結成会場には高槻市役所に働く仲間がつぎつぎと集まり、その数20数人。高槻市労組の伊延利弘委員長が、結成にあたって「憲法をまもる運動は、国民投票法の成立で新たな状況になった。こうしたなかで、高槻市役所にも『九条の会』ができた。『九条の会』のアピールを市役所内外に広げて、これからは保育所など職種や職域ごとにもっと広げていこう。退職者にも声をかけていこう」とあいさつしました。

結成会では、「弁護士九条の会」の西晃さんを講師に学習会。西晃さんは「『国民投票法』ができたが、国会で18項目の付帯決議がされたように、具体的な細部については定まっていない部分が多い。国民投票運動の自由を確保させること、公平な広報のありかた、改正項目別の投票など、これからの私たちの運動がキメ手になる。」と指摘しました。

「高槻市役所九条の会」では今後、市役所の内外に「九条の会」のメッセージを広げていくこと、さまざまな集会・学習会をひらいていくこと、などを申し合わせています。

BOOK（本の紹介）オン

『我、自衛隊を愛す故に、憲法９条を守る』

発行　かもがわ出版
定価　1470円＋税

著者の３人は、箕輪登（元防衛政務次官）、小池清彦（元防衛庁教育訓練局長）、竹岡勝美（元防衛庁官房長）という、防衛省の元大幹部。本書の推薦人は加藤紘一（元防衛庁長官・元自民党幹事長）という異色の本ですが、それぞれが、国民の命を守ろうとするが故の憲法９条への熱い思いを語ります。また、24万部発行の自衛隊機関紙『朝雲』にもこの本の宣伝広告が掲載されたことでも話題になっています。いま進行している改憲策動は自衛隊を認めるためではなく、海外派兵が目的であること、日本は平和国家として世界から尊敬の念を持たれていること、国防と自衛隊の名誉のためにも改憲は認められないと主張しています。また、箕輪登さんは８期つとめた衆議院議員。自ら起こした「自衛隊イラク派兵差止め訴訟」の裁判記録が掲載されています。